

全国統一要求（抜粋）

- 1. 常用単価1日4万円以上実現
- 2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



発行所  
全日本建設交運一般労働組合  
東京都新宿区百人町4-7-2  
電話 03(3360)8021  
毎月25日発行  
1部 50円

# ダンプの単価を大幅に引き上げよう 暴走政治をストップし生活を守ろう



寒風の中、元気にピラを配布する埼玉南部・北部の仲間たち（1月5日埼玉県庁前）



今年で10年目に突入した新春宣伝行動を終えた神奈川ダンプの仲間たち（1月5日神奈川県庁前）

## 県庁前宣伝

# 新春宣伝に46名参加 ピラ二、五〇〇枚配布

玉  
南部・北部

全国の仲間のみなさん、あけましておめでとう  
ございます。昨年は、各地で建設工事が大幅に増  
える一方で、人手不足やダンプ不足が大きな問題  
になりました。国は、公共工事の積算単価を引き  
上げるなど待遇改善を進めています。未端で働  
くダンプ労働者には行きわたっていません。また  
昨年4月には消費税増税も実施されましたが、そ  
もそも自ら単価を決定できないなど、消費税が転  
嫁されていない仲間も少なくありません。組合へ  
の結集を強め、元請が適正単価を支払うよう経済  
闘争を強化しなければなりません。強大な組織を  
作り、要求実現に向けて今年も奮闘しましょう。

1月5日（月）埼玉県庁前  
で、毎年恒例の南部ダンプ・  
北部ダンプ主催の「新春宣  
伝行動」をおこないました。  
今年は、ダンプの実態と公  
契約条例の制定を要請するピ  
ラを二、五〇〇枚用意し、仲  
間と共に配りました。寒空の  
中、午前七時から始まった宣  
伝行動は、建交労埼玉県本部

や埼玉連に参加する団体の方  
も参加し、盛大に行われ「お  
はようございます」「ダンプ  
の組合です」と大きな声でピ  
ラを手渡す仲間たちはとても  
頼もしく、ピラはほとんど手  
渡されていきます。県庁に向  
かう職員からも「寒い中ご苦  
勞様です。頑張ってください」  
と声を掛けられたり、犬の散

歩で近くを通ったご婦人は  
「何の行動ですか？」とわざ  
わざピラを取りに来て「こん  
なのヒドイね。応援します」  
と話してくれました。  
埼玉県では草加市で「ひと  
り親方」も含まれる公契約条  
例が制定されました。建設業  
界で働く仲間たちにとって、  
公契約条例の実現は重要な要

求です。建設業界の健全化の  
ため、またダンプ労働者の向  
上のためにも、実現させてい  
かなくてはなりません。要求  
実現のために、宣伝行動に参  
加した46人の仲間と共にすべ  
てのピラを配り終え「ダンプ  
を取り巻く情勢が変わりつつ  
ある今、公契約条例制定に向  
け、奮闘していきましょう」  
と総括し、全員の拍手で散会  
となりました。

### 県庁新春宣伝を実施 公契約条例の制定を

神奈川県本部は1月5日  
（月）、事業団・高齢者支部、  
ダンプ支部の仲間10名が、県  
職員の初登庁の日に宣伝行動  
をおこないました。  
この行動は、毎年おこなつ  
ており、今年で10年目を迎  
えます。県職員の中には、「今年  
もご苦労さま」など、寒さ  
も吹き飛ばしたあたたかい声をか  
けて下さる方もいます。  
宣伝では、両支部とも早急  
に「公契約条例」の制定を求  
め、朝7時45分～8時半まで  
ハンドマイクなどで訴えなが  
ら、七五〇枚のチラシを配布  
しました。その後、ダンプ支  
部では県土整備部技術管理課  
に新年のあいさつをし、課長  
らと名刺交換を行い、今年も  
ダンプ規制法「二二条団体等」  
である建交労加入ダンプの使  
用促進を求めました。  
この新春宣伝でまたピラ  
が年間通して、県発注の公共  
工事について、使用促進が一  
定程度前進するという影響が  
始まっています。

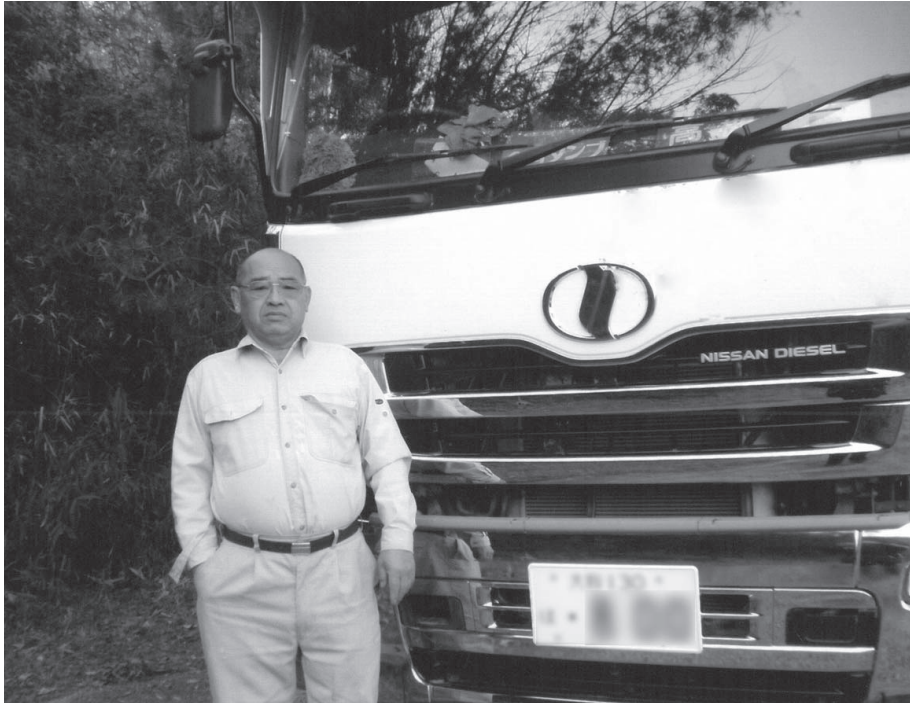
### 大臣宛署名アンケート 税金相談会に参加しよう

全国ダンプ部会では毎年、  
国土交通大臣宛にダンプの要  
求実現を求める署名を集めて  
います。また、全国の仲間た  
ちの実態を把握する為の要求  
アンケートも実施しています。  
各組織では集約に向けて積極  
的に協力ください。  
2月からは確定申告が始ま  
ります。各支部では税金相談  
会に取り組みます。未加入の  
ダンプや建設関連職人を誘っ  
て参加しましょう。

# 組合が勝ち取った要求 建退共で300万円支給

## 組合員紹介

# 関西ダンプ支部 若松利秋さん



砕石職場で奮闘し、ダンプの要求を前進させてきた関西ダンプ支部若松利秋さん

関西ダンプ支部の若松利秋さんは、2代目の委員長として、組織拡大や要求実現の先頭になって奮闘していただけてきました。若松さんも年は勝てず病気の為、一昨年12月（二〇一三年）に引退：満71才でした。現在も組合員です。

若松さんは28才の時に高槻砕石（株）のダンプ運転手になり、高槻砕石一筋43年間、家族のため、会社の経営を発展させるために奮闘してきました。当時は、高槻砕石専属のダンプ親方についてUD8トンの

車のボンネットダンプで運転手として働き、約5年後に中古10トン車のいすゞボンネットダンプを購入し、1台持ちとなりになりました。それから中古ダンプを4〜5台乗り換え、66才に、これが最後のダンプだと平成20年11月、新車UD10トンダンプを購入して、減価償却を完済させ、5年後にダンプを降りることになりました。

若松さんが1台持ちになった一九七五年（昭和50年）頃には、砕石運搬として働く仲間達に専属先会社の違いを超えて、ダンプ1台持ち18人で親睦会を結成し、団結して、仕事と生活を守ることをおこなっていました。そんなときテレビ放映された全日自労が組織するダンプデモを見て、ダンプの労働組合があることを知り、初代委員長となる京阪砕石で働いていた八阪氏が大阪の全日自労に連絡し、親睦会を発展解消し、労働組合を結成することに携わりました。当時、ダンプの仕事は、土日祝日関係は無く働かされました。長時間労働が強い



結集を強化し、使用促進と組織拡大で奮闘しよう（12月21日福島県郡山市内）

積載量は17〜20トン積むのが常態化、人間扱いされない状況にありました。基本要求は、「定量積載8時間労働で生活できる単価の実現」「単価の事前明示」「公平配車」でした。先行分会が毎年春闘要求を提出し、新組合を結成し、交渉が始まると、今まで呼び捨てだった組合員を「さん付け」で名前を呼んでもらうようになりました。組合を結成すると人間扱いされることも語られました。以後は「定量積載、運搬単価引き上げの要求や自社スタンの燃料単価の引き下げ、特別労災保険の掛け金援助、増車・減車の事前協議の確立、消費税の転嫁、最低保障制度の確立」など様々な要求が前進しました。

### 建退共制度を活用して ダンプの退職金を確保

さらに一九八九年（平成元年）に初めて建退共制度を要求し、1番目に住友砕石で実現してから、翌年には4社（4分会）でダンプ持ち労働者に建退共制度を活用した退職金が実現しました。当時二〇〇円/日の証紙を貼付して貰い続け、若松さんも約25年間貼付され、退職金を約三〇〇万円受け取ることが出来ました。

### 組織拡大・使用促進 組合への結集を強化

12月21日（日）福島ダンプ支部は、第29回定期大会を開催しました。代議員総数33名中25名の代議員と役員が参加しました。今後、福島県は除染で汚染土を処理する中間貯蔵施設を計画されていますが、地域住民の問題や運搬手の被爆問題など、山積しておりますが、決まれば1日2千台のダンプが必要になります。今こそ、要求実現に向けて組合への結集を強化する時です。今後の運動方針として、使用促進を旺盛に取り組み、分会の確立と分会会議の定例化に集中すること、通年を通して組織拡大を積極的におこなうことを誓い合いました。役員体制は以下の通りです。



要求闘争の成果を活かし、組織拡大に活かそう（12月3日秋田県秋田市内）

秋田ダンプ支部は、12月13日（土）、秋田市内で第28回定期大会を開催しました。ダンプ・建設労働者の労働条件改善を取り組んできた1年の活動として、県内や被災地での使用促進運動を通じて適正な単価を実現してきたこと、建退共、一人親方労働者の加入促進などの共済活動等も報告されました。西山運輸分会（運転手）の山中さんからは、「会社側の不当労働行為」をやめさせる闘いの決意を述べました。

大会は提案された議案を満場一致で採択し、要求実現、組織拡大に奮闘しようとの決意を固め、役員を再任しました。

### 役員体制

執行委員長	田中 喜三男
副委員長	高橋 正彦
書記	長谷川 久雄
特別執行委員長	井垣 剛
副執行委員長	森谷 好信
書記	鈴木 勝彦
書記	柳 彦彦